



10月号の1枚:嵐山、雨上がりのアベリア

# [巻頭言]若者に励まされる

子供達が自然の息吹きと触れ 合いを感じる森へ

大学生たちが当会活動に参加するようになって8年が経過します。大学を4年間で卒業する学生が、8年間も活動を途絶えさせずに後輩に引き継ぎ続してきたことは、驚嘆に値します。当会の森林活動で森林の現場を学んだ彼らのっち毎年、4~5名が林業関係の会社に力ちるがよりではよず。彼らは、ゴールやお盆休みを活用して就職先のの主県や岐阜県、群馬県などから当会の定例活動日に参加してくれます。年々るしくなって行くこの若者たちに会えることがどんなに嬉しいことか。今年、

8月18日の定例活動日に三重県から参加した就職4年目のNさんに「日中35度にもなる、この酷暑の夏の仕事の現場を聞かせてください」と聞きました。

「夏の仕事は、植樹した苗木の周りの下草刈りです。何かに掴まってないと滑り落ちる急斜面で下草刈り機を使って雑草を刈り取る作業です。灼熱と言て言い程の日差しの中での作業は、吹な板の上で焙られる様な苦しみです。吹ない出る汗に飲んでも飲んでも飲み足りない水を補給しながら作業をします。1時間と身体が続きません。一日の終わりはではもう、立っても、僕はこの仕事を辞

めません。シッカリ経験と知識を付けて、この森に帰ってくるつもりです。石村さん、私たちをこの森が受け入れてくれるようにしておいてください」

20年先、私はもう、生きていないが彼らを受け入れられる状態にまでしておく責任が私にはある。あの世が有るかどうかは知らないが、あの世からこの森に帰ってきた若者達の姿を見ることが出来るなら、彼が今、耐えている灼熱の苦しみ体験に報いる事が出来るだろう。

石村 黄仁(本会、代表理事)

今月の定例活動



10月6日(第一日曜日):

小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。

持続的森林経営:弁当持参。参加費:400円

10月20日(第三日曜日):

相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。

主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費:400円



責任ある森林管理 のマーク

#### [定例活動]小原本陣の森

9月1日(第一日曜日)

猛暑は過ぎ、澄み切った青空と心地良い風が僕たちに新しい季節が来たことを感じさせてくれます。そんな季節の中、僕たちForestNova☆は去る9月1日に小原での定例活動を行ってきました。今回の活動では、ForestNova☆からは6人、緑のダムからは川田さん、角田さん、そして小林さんが参加し、水源近くのハイキングコース入口から山を登りました。

まず、拠点の倉庫から整備道具を 用意したあと、来た道を戻って少し の所にある入口まで向かいました。 登ってしばらくすると、いつも登っ ていて馴染みのある山の道の筈なの に違う山を登っている錯覚に囚われ

まうもっし備ての魔りかっ一しの僕てっさ、歩なました人たもたいかれ下くもせ、こ分。、ちるりて草ののん今ののといが道とてなにが。回道道いつ登は整いど邪あし登は幅

しか無いのにも関わらず道の脇から 草が伸びてきていて、まるでジャン グルの中をかき分けて進んでいるよ うだったのです。苦戦しながらも進 んでいくと、尾根に辿り着きまし た。そこからは道も広くなり、軽快 な足取りで登ることができました。 すると風通しの良い、勾配がとても 緩い広場のような所に着きました。 そこで昼食を食べながら角田さんと 雑談をする中で、山の活用法につい て話し合いました。僕も山の魅力は 登山だけではないと思うので、他の 山の魅力を発信するためにまずは、 この山の道を整備して、登ってくれ る人が増えたらと思います。

昼食を食べ終え再び登り始めると、僕たちが前回登ったハイキングコースと合流しました。その道は、その先で僕たちが作った拠点へ続く径路にも繋がっているので、川田さ

ん、小林さんの組は来た道から下山 し、僕たちと角田さんの組は径路を 下りながら径路のデータを取ろうと したのですが、半日では全て取りき れませんでした。また径路を登ると きに挑戦したいです。

今回の活動では山の様々な顔を見ることができました。普段活動している径路付近は整備されているで、木が密集してなく、適度に下でもあるのですが、今回の道は歩くの道は歩るのですが、今回の道は歩る場があったり、水が流れていて清くはいるがあったり、水が流れていて、僕な所もありましたと思います。この体験をしたと思いない山の現状を重じ、整備されていない山の現状を重じ、整備されるような活動を目指します。

山田 和彦 (ForestNova)





#### [定例活動]相模湖嵐山の森

9月15日 (第三日曜日)

朝から豪雨。台風18号の余波は思いのほか大きく、活動が危ぶまれる状況であったが、そこは緑のダム北相模。この15年10カ月、一度たりとも休んだことはないのが誇り。相模湖交流センンターでの勉強会兼

交流会とあいなった。参加者13名。

前半は各班の活動状況や月一度行われている運営会議の内容についての話。司会は川田さん。津久井の間伐材を使うことでの森林再生を目指す商品開発・環境学習事業、森林・林業の改革のためのサプライチェーン・モデルづくり等、我が国の



林政にも精通している櫻井先生の参加もあって場は大いに盛り上がった次第。

後半は各メンバーの近況や今後の 抱負などがユーモアを交えながら、 時にきっぱりと語られた。普段の山 仕事ではなかなか知ることのできな い会員の思い。改めてそれぞれの熱 意を受け止めるよい機会となった。

昼食後。豪雨から一転、青空が広がる。それなら山に行かない手はないということで石村さん、櫻井先生を初め有志何名かが嵐山に向かう。雨に濡れたアベリアやヤマホトトギスの花が陽の光に輝いている。作業

はもちろんできないが、 やはり皆、山が好きないができないができる。 では初参かの早大に不力ができる。 野君は初参かの早大をものでは悪災では悪災で被害を 大生は震災で被害を再生がでいるという。 ではないる。

山では皆、特別に何をしたというわけではないが、ゆったりと森の懐に抱かれたよう。たまにはこんな日もあってよい。晴れなら晴れ、雨なら



雨で為すべきことを為す。日々これ 好日。緑のダムの心構えである。

内野 郁夫 (本会、理事)

# [報告 1] 小学校の机天板に地域材を 9月5日

相模原市との協働事業として、 学習机の天板を外材の合板から地域のクヌギの集成材に変更する事業が進められています。モデル校の市立新宿小学校4年生2クラス67人分の机天板を市内で間伐した落葉樹で制作し、9月5日に取付け作業が行われました。この事業は総合学習の年間授業の中に組込まれ、単に天板を変更するだけではなく、森林環境学習の一環として始まりました。5月には当会の内野先生の森林授業、9月には津久井郡森林組合坂本専務理事の天板ができ るまでの授業が行われ、10月には 嵐山で当会やインストラクター神 奈川会のみなさんのご協力で森林 体験をする予定です。毎日勉強する 学習机天板がどのような森からで きたのか、実際に森の中で木に囲 まれて、木に触って何かを感じ取っ てほしいと思っています。

この提案事業は、①地域材を有効利用する商品間発②地域材伐採・搬出・製材・加工・販売など協働する仕組みづくり③子ども達の森林環境教育が主な目的です。

天板制作にあたり、津久井郡森 林組合との協働により商品化がで きたことは、地域材の間伐対策に 新しい方向性が見いだせたと思っ ています。

そして何よりも、新しい木の天



板に替わった時の子ども達の嬉し そうな表情は忘れられません。

「大切に使う人」と尋ねると、一 斉に大きな声で「はーい」と元気 な答が返ってきました。

この事業がきっかけで、市内全 小学校の学習机天板が地域材の集 成材に変更することを願っていま す。

淵上 美紀子(さがみ湖 森・モ ノづくり研究所)





## [報告2] 小原の方々との交流

私たちForestNova☆は、8月中旬に開催された小原のお祭りや、下旬に行ったお泊まり会で思い出に残る日々を過ごすことが出来ました。小原の方々の元気さに圧倒され、優しさに胸を打たれた夏であったと思います。

小原のお祭りでは、3日間で計7 人が参加しました。最初は子供た ちのお神輿。炎天下の中、掛け声 とともにお神輿を担ぐ子供たちと 共に集会所の付近を周回しまし た。私も大団扇を扇ぐ役をやらせ ていただきましたが、少しの距離 ですぐに疲れてしまい、子供たち の底知れぬ元気と体力に驚かされ ました。次に数名の子供たちと共 に、おつかいに八王子へ出かけま した。様々な店をまわりながら数 時間に及ぶ買い物を終えてもなお 元気な子供たちには感服です。夜は 小原の皆でお神輿を引きました。 神々しく輝くお神輿に目を惹か れ、一生懸命引っ張っていく背後 で度々上がる花火や空気を震わす

爆竹に感動を覚えました。星が輝 きを増す頃になってもお祭りは続 き、帰りの電車内でも興奮が冷め 止まなかったのはそれだけ心が躍 った証拠かもしれません。翌日、 すっかりくたびれた私を待ち受け ていたのは元気な小原の方々の姿 でした。集会場にてお店を出しな がら、貴重なお話をたくさん聞く ことができました。また盆踊りに もたどたどしい踊りではありまし たが参加し、曲に合わせて手足を 動かすことで解放感が生まれ、笑 顔がこぼれました。有名な歌手の 勇気がわく歌声に耳を傾け、打ち 上げられた花火にわっと歓声がわ きました。

お泊まり会では計9人と町内会長の小林さんのご家族、夢屋の中里さん、いつもご馳走になっている小林さん親子をお招きした。皆で料理を持ち寄り、それぞれの家庭の味を楽しいお話を聞かせてがただいたり、それぞれの考える人生を語りかけとなり、さらなる友好を深めるこ

とができました。お話の中で小原 の方々の優しさを感じ、さらに小 原が好きになりました。夜は小原 の小学生と手持ち花火をしたり、 少し夜更かしをしたりと楽しい夜 を過ごしました。翌日は時の流れ の速さと名残惜しさを感じながら の解散となりました。

一連を通して学んだことは、人 と人とのつながりの大切さです。人 とはこれほどまでに温かいもので あるということに気付かされまし た。これからもこの温かみを忘れ ずに、活動していきたいと思いま す。

世持 由美子 (ForestNova)



# [報告3] 8月嵐山定例活動 「植物からまなぶ」

8月の嵐山。入口の坂道は、地面が見えないほど萌黄色の植物たちが競って背丈を伸ばしている。拠点の近くに行けば、そのわきに紫色の小さな花が咲いている。毎月入っている森にある植物のことを、私たちはどのくらい知っているのだろう。毎月変化する嵐山の自然に私たちは、どのくらいついていけているのだろう。大好きな

嵐山。自分たちが楽しむために、 そしてもっと多くの人に嵐山の魅力を伝えるために、植物のことえて、 知りたい!そんな思いたでなれている。 うち草本の資格をもつ内のででである。 うち草本類を中心に教えてのりた。 うち草本類を中心でかる道はのである。 いているがあるはずないでないを思いがあるはがあるに見たことがあるはがががまって、 たことがあるはいているのにいていたのに知らないも自分たちされました。 いるのかを思い知らされました。

葉、茎、花、実の特徴、どんな

自然が好きで知りたいと思っている仲間と一緒にその話を聞くことで、より印象深くより楽しく学ぶ



ことができたと思います。

今回教えて頂いたおよそ50種類の植物。到底半日話を聞いただけいただけいでは、忘れてしまうものの方が多いのかもしれません。だから忘れないように、毎月同じ場所に行けるのだから沢山ある植物一つ一成を確かめながら、その植物のたをしていながら、葉の色など、季のの変化を見落とさないようにの季いと思います。そして森全体の季

節の変化、色の変化を大切にしたいです。まだ、嵐山には私たちが知らない植物があります。例え名前がわからなくても、植物の「命」を感じて、さらに植物のこと、森のこと、命のことを、沢山の人に広めていきたいと思います。そして、先輩から後輩に、初参加の人に、植物の魅力を、森の魅力を繋いでいけるようにしたいと思います。

望月 亜佑子 (ForestNova)

# [報告4] 「自然・文化がある幸せを次世代へ:森林と水と文化・まなびのエコステーション」報告

8月14日水曜から24日土曜まで、国連大1F地球環境パートナーシッププラザにて、本会、上智大学アジア人材養成研究センター、NPO織の海道実行委員会、協力杉並区立高井戸中学校地球環境



> することから、連日親子 連れの方が多く訪れ、に ぎわいのあるイベントに

なりました。イベント初 日からザンビア大使館、 宮古島市観光課の方に来 ていただき、お互いの活 動紹介などの交流を行いま した。イベントの前半は子ど もたちと大小様々なアンコー ル遺跡群を積み木で作り、後 半は「本気モード」でアンコ ールワットを中心にアンコー ル遺跡群を制作しました。ま たイベント中は、ビジュアル ミニッツ講演という形で上智 大阿部さんと私で文化、森が つながる幸せについてお話を させていただき、その内容を アートファシリテーターの福 井さんがその場でイラストに





していくという講演会も行い、立ち見をしていただけるほどの盛況ぶりでした。最終日には、上智大学アジア文化研究所遠藤宣雄先生の講演「カンボジア村落の生活」も行われました。いずれの様子も本会のYouTubeチャンネルで公開しています。

今回も本当に多くの方のご支援、ご協力があり、イベントを成功させることができました。ありがとうございました。

宮村 連理(本会、理事)

## [事務局からの お知らせ、お願い]

#### 相模原市新宿小学校での取組みが朝日新聞、神奈川新聞に掲載されま した

本ニュースレターでもご紹介した地域材に机の天板の取組みですが、 朝日新聞9/6神奈川県版(http://www.asahi.com/area/kanagawa/ articles/TKY201309050470.html、全文表示には登録が必要です)、 神奈川新聞9/6(http://

news.kanaloco.jp/localnews/article/ 1309090002/)に掲載されています。ぜ ひご覧ください。





# 会員コーナー

- ●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。
- ●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。 領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。 また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。 振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入し て、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局 (記号) 10000-(番号) 65791651



#### 参加にあたって:

初参加者は、9時15分までに JR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、 汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、 万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食;自分の食器(お椀・お箸)

#### 危機管理・救急対応:

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

#### NPO法人

### 緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。

そして、沢山の参加で森は、良くなる。 (台風の日は勉強会開催。16年間、 一日も休まず"継続は力"。) 名称:特定非営利活動法人 緑のダム北相模

事務局: 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人: NPO緑のダム北相模 事務局 Tel&Fax 03-3411-1636

URL: http://www.midorinodam.jp

E-mail: info●midorinodam.jp ●を@に変更して使用してください

corner●midorinodam.jp 会員コーナー専用アドレス

協働団体:セブン-イレブン記念財団、相模原市(市民協働推進課)、

東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京

支援団体: WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、

神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、

マルモ出版